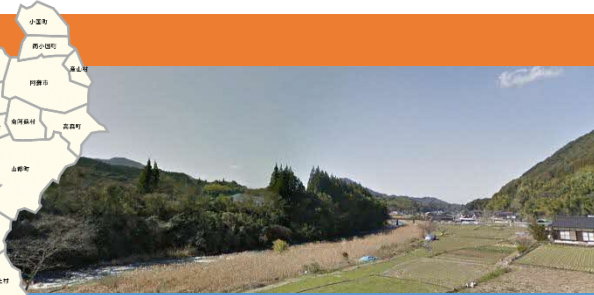


ご た ん だ

⑦五反田地区(八代市)

- ◆農家戸数 12戸
- ◆農地面積 24.4ha(うち13.7haは水田)

生姜の里の未来のために ~ひとづくり、ものづくり、ともに生き続ける~



[中山間農業ビジョンの概要]

集落の課題(現状)

- 小区画や不整形な農地が多い
- 機械のオペレーターや担い手を確保したいが、地区内での確保は困難
- 農地・施設の保全管理ができず、耕作放棄地が増加する
- 機械の充足率が高く、整理が必要

目指す将来像

- 中山間地に適合した新規作物の導入
- 農地を担い手に集積、機械を整理
- 機械の共同利用化、水稻栽培のコストダウン
- 耕作条件の改善、農業所得の向上
- 地区外からの担い手受け入れ

具体的方策

- 基盤整備(暗渠排水、客土、ボーリング等)の実施
- 機械の共同利用化
- 高収益作物(ショウガ)の拡大(近隣との連携含む)
- 新規作物導入および担い手確保

[ビジョン策定のプロセス]

ビジョン策定以前

◆平成12年度、国の中山間地域等直接支払制度活用の際に「五反田地区集落協定」を立ち上げていた。

◆この「五反田地区集落協定」のメンバー8名がスライドし、中山間農業モデル地区事業の検討メンバーとなる。

検討開始と意識変化

◆平成29年6月よりモデル地区設定に向けた打ち合わせを行い、平成29年11月のモデル地区の設定を受け、ビジョン策定のための検討会を開始。

◆農業ビジョンに記載される5つの項目(集落の現状、集落の課題、集落の目指す将来像、具体的方策、成果目標)それぞれについて順番に話し合い。
◆鶴喰・薩摩川内へ先進地視察。

◆「具対的に今どんな問題点があるか」について意見を出し合い、討論。

◆「10年先を見据えて行動を起こしていかねば」という意識の変化。

営農改善組合の設立

◆平成30年3月、営農改善組合を設立。
◆組合としてまず着手したのは農業機械の導入。地域の大きな問題のひとつが各農家による農業機械への過剰投資であることから、コスト削減のために機械の共同利用をスタートした。



H30.3.23
営農改善組合(話し合い組織)設立総会

合意形成の困難

◆事業全体への合意形成に困難が生じている。地域内の人々の意識改革が必要である。

〈困難さの要因〉

◆集落内の農家が比較的若い。働き盛りで、ビジョン実現へ向けた事業参加の時間が取れず、意識の統一も難しい。
◆そのため、一部の役員に大きな負担が掛かっている。

⑦五反田地区(八代市)

生姜の里の未来のために ~ひとづくり、ものづくり、ともに生き続ける~

[具体的な取り組み 計画と取組現状]

成果目標(令和3年度):①ショウガの作付面積100a増加 ②機械利用組合または集落営農組織(法人)の設立

1. 基盤整備の実施

暗渠排水、客土、ボーリング等を行い、農作業環境を改善する。

- ◆米の反収20万円に対し、ショウガの反収は200万円。米からショウガへの栽培切り替えを、米農家に対して提案していきたい。
- ◆しかし、ショウガは良好な水はけが必須。そのため、暗渠排水、客土、ボーリングの推進が必要。
- ◆ショウガ栽培への切り替えはまだ確定しておらず、基盤整備は未着手。

2. 機械の共同利用化

令和2年度までに田植機等を購入し、共同利用でコストダウンを図る。

- ◆初年度(平成30年度)は、トラクター、田植機、播種機の各1台を購入。2年度(令和元年度)は、コンバイン1台を購入。
- ◆購入した機械は、各農家に貸し出すが、まだ貸し出し回数は少ない。
- ◆貸し出しによる収益アップも重要な課題であり、認知度向上、PRの必要がある。

3. 高収益作物(ショウガ)の拡大(近隣地域との連携を含む)

遊休化している農地にショウガを作付けし、収益増を図る。

- ◆もともとショウガは地域の特産品であるが、これをさらに作付拡大していきたいと組合では考えている。
- ◆しかし、ショウガは病気に弱く、そのため、機械の共同利用が進まず、作業効率化の妨げとなっている。
- ◆意識を変革し、農地と機械の集積が必要だが、まだ時間がかかる。

4. 新規作物導入および担い手確保

新規作物導入と担い手確保に向けた検討を行う。

- ◆観賞用ホオズキを試験的に栽培スタート。ただし、まだ成果はない。
- ◆令和2年2月、栗の苗木を耕作放棄地1000㎡に植樹。成果はまだ先。
- ◆酒米「山田錦」の作付けも計画されたが、担い手が集まらず、頓挫した。
- ◆ナス、アスパラガスも検討中だが、着手に至っていない。
- ◆個別農家には後継者がいるが、法人化して共同で地域の農業づくりに取り組もうという意識は薄い。継続して若手の勧誘を進めたい。

[成果と今後の展開方向]

1. 全体的な成果

- ◆夢(ビジョン)を掲げたことが、地域のプラスに！夢の実現に向かって今後の運営方針を立てることが重要。
- ◆組織化することで進んだ、地域の可視化と人のつながり。この事業を通じて、法人化への足掛かりを作りたい。
- ◆農業機械の購入を行い、古い機械しか持たない農家は助かっている。機械の共同利用化を東陽町の他地区へも拡大を図りたい。

2. 今後の展開方向

- ◆組合内部における「米を買う」ということへの理解促進。個別農家から法人化された農業への意識変革を粘り強く。
- ◆高収益作物導入に向けた、野菜の試験栽培を計画。高菜、スティックセニョールなどを検討中。
- ◆高齢者のみの農家では耕作放棄が増加。組合としては作付拡大が課題だが、現状では維持が精いっぱい。